

岡山県高等学校体育連盟会長あいさつ

インターハイならびに全国定通制体育大会の中止に伴い、5月11日付け、岡山県高校総体、岡山県定通制春季大会の開催を中止しました。成果発表の機会の度重なる中止により、特に3年生の皆さんには、多大なる失望を与えてしまいましたこと、改めてお詫びいたします。先般4月27日付けで「高校生アスリートの皆さんへ」と題したメッセージを送りましたが、その思いは今でも何一つ変わっておりません。歴史に残る“大惨事”に直面した皆さんの心中を察しますと、やるせなさどぶつけようのない不満に包まれていたのではないかと思います。

そうした中、何とかして活動の機会をつくってあげられないかと、岡山県教育委員会をはじめ、各方面と協議し、検討を重ねてまいりました。その結果、ようやく「岡山県高等学校総合体育大会代替大会」を実施する運びとなりました。この間、関係の皆様方の高校生アスリートに対する熱い想いに敬服し、大会準備に係る一方ならぬ御尽力に対し、厚くお礼申し上げます。

約3か月のブランクは想像以上に長く、自分たちが情熱を傾けてきた時間のみならず、アスリートとして失うものが多くありました。正常な状態を思い浮かべていただければわかると思いますが、体力や筋力はもちろんのこと、感覚や“勝負勘”に至るまで、コツコツ積み上げたとしても、自分がそれを自覚し、体得するまでには相当な時間と期間を要するものです。その反面、身につけるために要する時間の長さ比べ、何もしなければ一気に停滞し、下降していくスピードは早いものです。そうしたことから、部活動が再開された6月1日は、正に「貯金ゼロ」からのスタートではなかったかと察するものです。参加される選手の皆さんは、性急なコンディション等の回復を求めるのではなく、自分の心と体に向き合い、対話しながら調整を進めてもらいたいと願います。

また、新型コロナウイルス感染症に対し、最大限の予防対策を講じなければならないことから、試合形式、試合方法などが通常とは大きく異なる競技もありますが、自分を守るため、周囲の人を守るための行動は、今や世界の常識になっており、スポーツ界でもスタンダードになっています。不自由さや不便さもありますが、理解と協力をお願いします。

その上で、本来部活動は、「生徒の自主的、自発的な参加」によって行われるもので、当然主役は選手の皆さんです。「今はないものについて考える時ではない。今あるもので何ができるかを考える時である」と、アメリカの詩人であるアーネスト・ヘミングウェイが言っているように、楽しみ方、戦い方、交流の仕方などを自分たちでしっかりと考え、参加者全員の思いと英知を結集し、創り上げていく大会にしてもらいたいと思っています。

おわりに、開催時期などの理由で参加しない3年生、感染症対策が十分に行えないなどの理由で非開催となった競技に所属する3年生の皆さん、結果として成果発表の機会を設けることができなくなったことに対し、大変申し訳なく思っています。これまでの努力を自信に置き換え、アスリートの強みである「負けない心と諦めない勇気」を持ち続け、前へ前へと進まれていくことを願い、陰ながら応援してまいります。